

MS&ADインシュアランスグループについて

MS&ADインシュアランスグループは特色ある3つの損害保険会社と2つの生命保険会社を中心とした保険・金融グループです。「活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支える」ことをミッションとして掲げ、世界50の国・地域で事業展開しています。

グループの強みの一つは多様性です。各社の強みや個性を活かし、多様なリスクに対応する商品・サービスを全世界に提供しています。

持株会社

MS&AD MS&ADホールディングス

国内損害保険事業

- MS&AD 三井住友海上
- MS&AD あいおいニッセイ同和損保
- MS&AD 三井ダイレクト損保

国内生命保険事業

- MS&AD 三井住友海上あいおい生命
- MS&AD 三井住友海上プライマリ生命

海外事業

- 海外損害保険事業
 - アジア
 - 欧州
 - 米州
- 海外地域事業
- テレマ・モビリティ事業
- 本社再保険事業

金融サービス事業

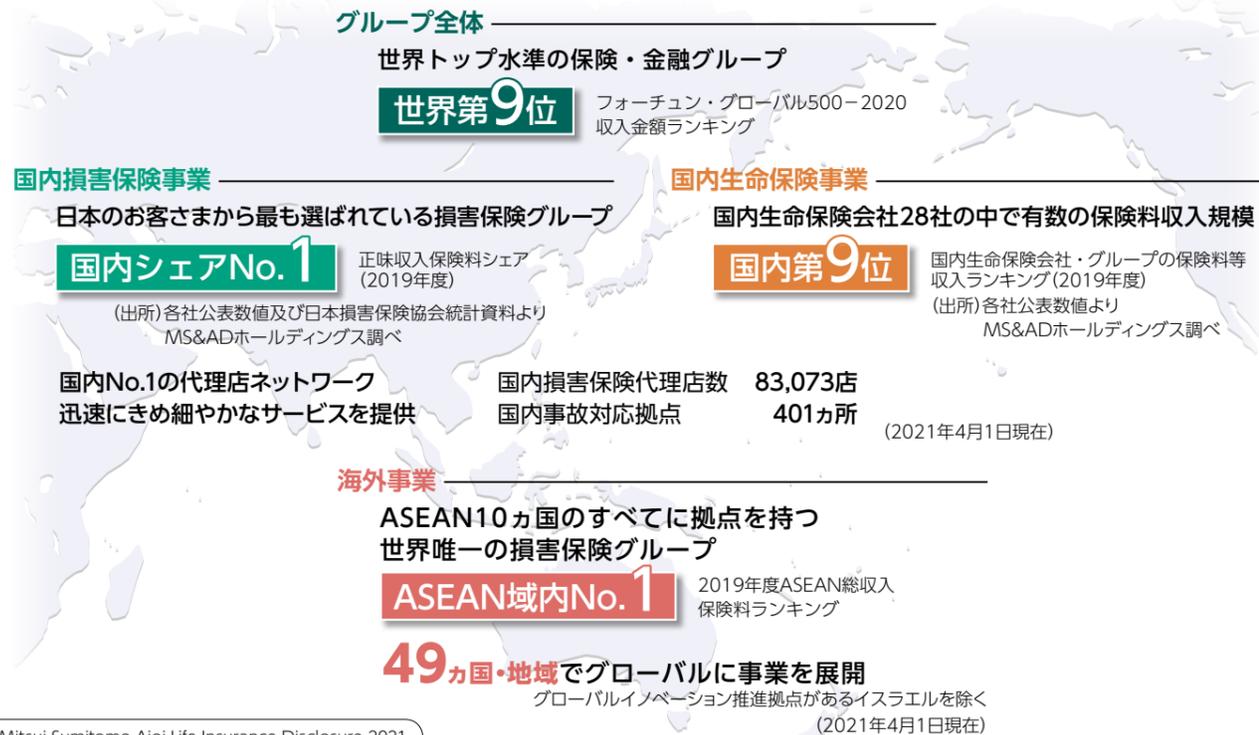
リスク関連サービス事業

- MS&AD MS&ADインターリスク総研

5つの事業ドメインを支えるMS&ADインシュアランスグループ各社

- MS&AD MS&ADビジネスサポート
- MS&AD MS&ADシステムズ
- MS&AD MS&ADアビリティワークス
- MS&AD MS&ADスタッフサービス
- MS&AD MS&AD事務サービス
- MS&AD MS&AD VENTURES

MS&ADインシュアランスグループのポジショニング



MS&ADインシュアランスグループの目指す姿

経営理念(ミッション)

グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支えます

経営ビジョン

持続的成長と企業価値向上を追い続ける世界トップ水準の保険・金融グループを創造します

行動指針(バリュー)

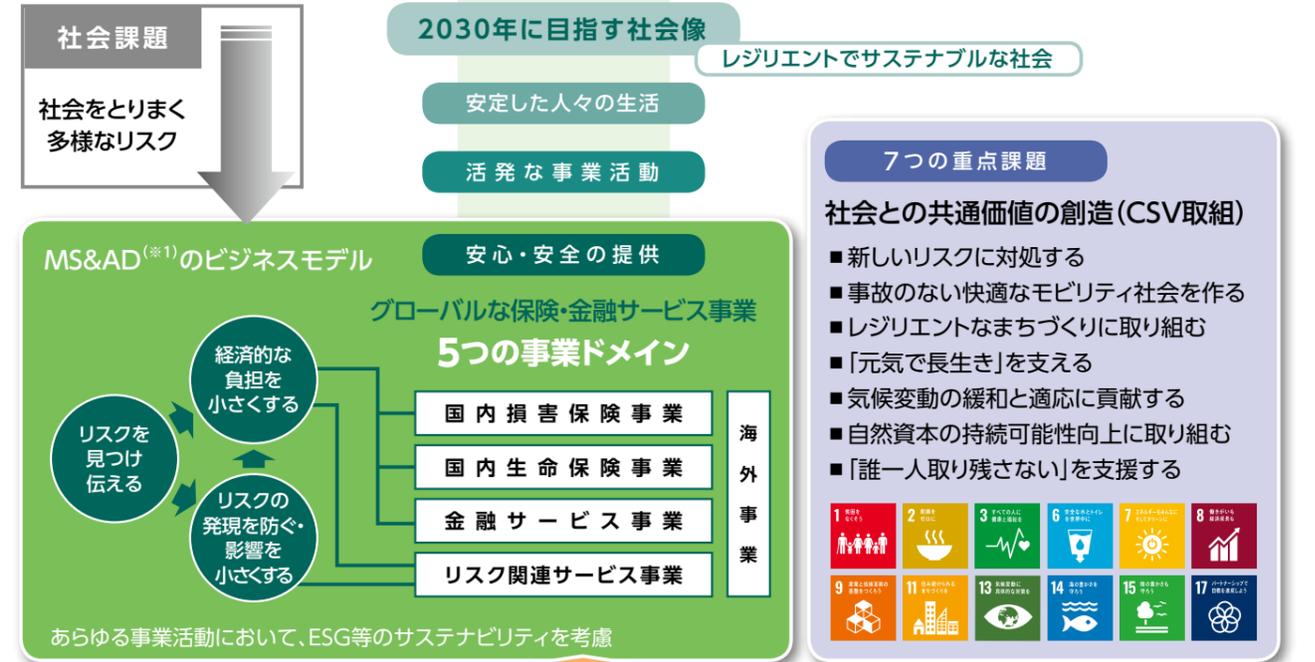
- お客さま第一
- 誠実
- チームワーク
- 革新
- プロフェッショナリズム

MS&ADインシュアランスグループの価値創造ストーリー

ミッションを達成するために、それを阻む社会課題に向き合い、そこから生じる多様なリスクをいち早く見つけ、リスクの発現を防ぎ、リスクの影響を小さくするとともに、リスクが現実となったときの経済的負担を小さくするためのさまざまな商品・サービスを通じて、お客さまが安心して生活や事業活動を行うことのできる環境づくりをサポートする、これがMS&ADインシュアランスグループの価値創造ストーリーです。「価値創造ストーリー」を紡ぐ企業活動を通じて、社会との共通価値を創造し(CSV: Creating Shared Value)、「レジリエントでサステナブルな社会」の実現を目指していきます。

ミッション

活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支える



社会の信頼に応える品質

- 高い品質で社会の信頼に応える
- 誠実かつ公平・公正な活動
- 人権を尊重した活動と対話
- 環境負荷低減取組を継続する
- PRI(責任投資原則)に則った投資活動



社員がいきいきと活躍できる経営基盤

- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 自ら学び考え、チャレンジし、成長し続ける社員に
- 健康経営^(※2)
- 透明性と実効性の高いコーポレートガバナンス



※1 「MS&AD」は、MS&ADインシュアランスグループを略した表記です。
 ※2 「健康経営」は、特定非営利活動法人健康経営研究会の登録商標です。

グループ中期経営計画「Vision 2021」概要

2018年度にスタートした「Vision 2021」では、基本戦略と、それに基づく3つの重点戦略によって、グループ発足時からビジョンとして掲げてきた「世界トップ水準の保険・金融グループ」の実現と、持続的な成長を実現する「レジリエントな態勢」の構築を目標として取り組んでいます。

<計画期間中に目指す姿>

- ▶ 世界トップ水準の保険・金融グループの実現
- ▶ 環境変化に迅速に対応できるレジリエントな態勢を構築

【基本戦略】

- グループの資源を最大限に活かし、持続的成長と企業価値向上を実現する。
- 多様性を強みとするグループ総合力を発揮し、お客さまをはじめとするステークホルダーの期待に応える。
- 環境変化に柔軟に対応し、品質と生産性をさらに向上させる。

重点戦略①

グループ総合力の発揮

重点戦略②

デジタル化の推進

重点戦略③

ポートフォリオ変革

目指す姿への達成状況

- グループ総合力の発揮は、グループ全体での連携による成長や、共同化・共通化による生産性の向上に取り組んできた結果、国内元受正味保険料は、3年連続で業界トップ水準の成長率を実現しました。
- デジタル化の推進は、商品・サービスの変革を目指し、補償・保障前後のリスクソリューションを提供する「見守るクルマの保険(ドラレコ型)」に加え、「健康経営支援保険」や「見守るサイバー保険」などの商品ラインアップを拡充しました。また、従来の米国テレマティクス・データビジネスから派生して、保険ソフトウェアの会社を設立するなど、新たなビジネスの創造に取り組んでいます。
- ポートフォリオ変革は、国内損害保険事業以外で利益の50%を目標としてきましたが、2021年度には国内損害保険事業とそれ以外で、ほぼ半々の水準を達成できる見通しです。リスクポートフォリオ分散は、足元の株高の影響により目標の達成が難しい状況ですが、政策株式の売却は、2017年度から2020年度末で目標を達成しました。

	2020年度の進捗状況	中期的に目指す姿(2021年度目標) [世界トップ水準の保険・金融グループ]
スケール	9位 (FORTUNE GLOBAL 500 2020, P&C)	世界の損害保険会社グループ トップ10圏内
資本効率	6.7%	グループ修正ROE10%
財務健全性	235% (参考:UFR適用時 246%)	ESR180%~220%
ポートフォリオ分散	32%	国内損害保険事業以外で50% (利益ベース)
政策株式の占める割合	リスク量の 34.0% 連結総資産の 11.8%	政策株式が グループのリスク量の30%未満、 連結総資産の10%未満
収益性	自然災害除くEiconバインドレシオ 91.7%	国内損害保険事業のコンバインドレシオ 95%以下を安定的に維持

経営指標

▶ 財務数値目標

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度予想	2021年度目標
グループ修正利益	1,898	2,331 ^(※1)	2,146	3,000	3,000
国内損害保険事業(除く政策株式売却等損益)	1,469 (651)	1,195 (984)	1,585 (1,199)	1,710 (1,360)	1,770 (1,500)
国内生命保険事業	316	297	569	430	410
海外事業	54	494	△71	800	750
金融サービス事業/リスク関連サービス事業	58	48	61	60	70
グループ修正ROE	6.1%	8.0%	6.7%	8.5%	10.0%
当期純利益	1,927	1,430	1,443	2,300	—
連結正味収入保険料	35,004	35,737	35,009	36,130	35,800
生命保険料(グロス収入保険料) ^(※2)	15,999	13,934	12,973	12,000	10,000
三井住友海上あいおい生命EEV ^(※3)	8,194	8,902	9,583	10,100	9,620
ESR(Economic Solvency Ratio)	199%	186%	235%	180%~220%	180%~220%

※1 MS海外事業再編影響のうち2019年度の支払法人税等減少額296億円を含む

※2 生命保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

※3 現在の純資産価値に保有契約が生み出す利益を加えた、生命保険会社の企業価値を表す指標の1つ(28ページ「2020年度末ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー」をご参照ください。)

▶ 非財務指標

社会との共通価値の創造(CSV取組)		
指標	2020年度実績	2020年度以降のグループ目標
「社会との共通価値を創造」 する取組みとなる商品開発・ 改定等	7つの重点課題(P.9)	7つの重点課題(P.9)に関し、4つの取組方法を定め、定性的に確認します。 4つの取組方法 商品・サービスの提供 投資 研究・政策提言 社会貢献等

関連する主なSDGs



社会の信頼に応える品質			社員がいいきいと活躍できる経営基盤		
指標	2020年度実績	2020年度以降のグループ目標	指標	2020年度実績	2020年度以降のグループ目標
品質向上			ダイバーシティ&インクルージョン		
ご契約時のアンケートにおけるお客さま満足度	97.3%	前年度同水準以上	女性管理職比率(国内)	16.1%	国内30.0%(2030年度)
保険金お支払い時のアンケートにおけるお客さま満足度	96.7%	前年度同水準以上	社員満足度「いいきいと働く」	4.5ポイント	前年度同水準以上
環境負荷低減			サステナビリティKPI以外の主なモニタリング指標 ●グローバル従業員数・比率 ●障がい者雇用率		
CO ₂ 排出量削減率	△20.7% ^(※4)	基準年度(2019年度)のCO ₂ 排出量に対して、2030年度に50%削減、2050年度にネットゼロ ^(※6)	健康経営		
総エネルギー使用量	943,090GJ (△33.4%) ^(※4)		社員満足度「誇り、働きがい」	4.4ポイント	前年度同水準以上
紙使用量	11,080t (+5.1%) ^(※5)	対前年度比改善	年次有給休暇取得日数	15.7日 ^(※5)	前年度同水準以上
			男性育児休業取得率	64.6% ^(※5)	前年度同水準以上
			社会貢献活動を実施した社員数	26,519名	前年度同水準以上

※4 2009年度を基準とした2019年度の削減率となります。

※5 2019年度実績の数値となります。

※6 2021年5月より新たな目標を設定しました。